

2年生の皆さんへ

1年生の時、英語表現Iで使っていた Ultimate の分厚い参考書ですが、基本的には教科書の文法単元に対応していました。しかしながら見ての通り Ultimateの方が分厚く、文法単元が教科書のものより少し多くあります。授業で触れていない単元を本来であれば4月頭に一気にやる予定でしたが、難しそうなので、この期間を利用して定期的にその範囲の解説文をHPにupしていきます。Ultimateを参考にしながら、勉強していきましょう。

また文法自体が苦手な解説を読んでもわからない人、また読む気にもならない人はまた別の方法を考えますので、ひとまずやれそうなところだけ勉強していきましょう。

単元の目標

1. not と never の違いが理解できる
2. no, none, nothing が用いてある英文を日本語にできる
3. hardly, scarcely, seldom, rarely のそれぞれの単語の意味がわかり、それを使って平易な一文が書ける
4. a few と few, a little と little の違いを反映させながら英文を日本語にできる
5. 部分否定、二重否定が使っている英文を日本語にできる

★I： not と never の違い（P374～375）

[解説]

not と never 各々は、皆さんすでに意味を中学校で学んでいます。しかし「意味の違い」ははっきりと学んでいないと思います。この section ではその2点について学びます。

まず not と never は共に何かを否定するときに用いる言葉です。皆さんがよく知っているのは do not とか did not のような否定文に使われる not、I have never been to…のような現在完了に使われる never だと思います。これらの語は「否定」の意味を付け加える役割をするので「否定語」と呼ばれています。

否定語ですが、「否定する語は原則その直後の語である」と決まっています。例えば、My sister does not like swimming (Ultimate 374 ページの FOCUS 161 の 1) の not (否定語) は直後の like を、Our teacher told us not to open our textbooks (Ultimate 374 ページの FOCUS 161 の 2) は直後の to open をそれぞれ否定します。したがって「好きでは“ない”」「開け”ない”ように」という訳がそれぞれ付きます。並び替え問題などで否定語の位置を迷う人がいますが、すべては「否定する語は原則その直後の語である」というルールに基づきます。よって以下のような文章も作れます。

She married him for love, not for money. (Ultimate より引用)

(彼女は、お金のためでは“なく”、愛のために彼と結婚した)

※ここでは not の後の for money を否定します。お金のためでは“なく”・・・ということです。逆だったら怖いですね。

I practice hard, not because I should, but because I want to. (Ultimate より引用)

(私が一生懸命練習するのは、そうしなければならないからでは“なく”、そうしたいからだ)

※ここでは not の後の because 以下を否定します。練習大切！

続いて「not と never の意味の違い」ですが、never は not ever の省略形です。ever が「今までに」という意味なので never は「今までに～ない」という意味ができますね。また「今までに～ない」というと not よりも強く否定の意味が加わっているので意識として「二度と～しない」とか「まったく～ない」みたいな訳し方もされます。しかし基本は、not よりも“強い否定”というイメージで大丈夫です。never も not と同じ否定語なので、位置や意味のかかり方は全く not と同じです。つまり「直後の語」を否定します。

一つ注意しなければいけないのは never も not も副詞であるということです。副詞という言葉が意味不明な人

は always と同じ扱いだと思ってください。したがって以下の文は×です。

She never eat meat.

Never が助動詞っぽいのでついつい、eat を原形にしがちですが、これは always に書き換えると、

She always eats s meat.

となるように、

She never eats s meat.

と三人称単数を反映させる必要があります。よく落とすところなので気を付けてください。

ちなみに not の位置で色々な意味が出る例文については Ultimate p385~386 に掲載されているので見てみてください。

★2： no, none, nothing が用いてある英文 (P376~378)

[解説]

1. no について

no は、中学1年生の一番最初に習う単語ですが、高校では名詞の前につけて「ゼロ」の意味を表すことができます。以下の例文を見ながら理解して行ってください。

① There are no cars on the street. (通りには車が1台もありません)

→ 通りにある車が「ゼロ」なので「1台もない」という訳になります。No が「1つも~ない」と覚えるよりも、「直後にある名詞がゼロである」という絵を頭の中でイメージしてそれを日本語に変えた方が上手くいきます。高校英語は、中学とは違いイメージが日本語から伝わってくれば○の訳になります。

② He is no fool. (彼は決して愚かではない)

→ 愚かな度合い (fool) が「ゼロ」という意味になります。よって「全く愚かでない」という風な訳出になります。

③ He has no wife. (彼には妻がいません)

→ 妻が「ゼロ」という意味合いです。「ゼロ」を強調することで He doesn't have wife よりも「ゼロ (いない感)」が強調されると思います。

2. none について

none は高校の範囲では、「none of 複数形の名詞」の形でしか出てきません。もともと no one という2つの単語が1つになったものなので、「no one of」という形でイメージします。

例： None of the passengers were injured. (乗客は誰もけがをしなかった)

→ 乗客 (passengers) のうちの一人 (one) として傷ついたものは「ゼロ」(no) という風に考えます。

3. nothing について

no+thing でできた言葉です。「物事 (thing)」が「ゼロ (no)」であると考えます。

例：Nothing is more delicious than pudding. (プリンよりもおいしいものはない)

→おじやる丸が言いそうですね。Thing is more delicious than pudding (プリンよりもおいしいもの) がno (ゼロ) なので「プリンよりもおいしいものはない」になります。

★3： hardly, scarcely, seldom, rarely について (P378~379)

[解説]

この四つは受験英語によく出ます。実生活では完全に文語体なのであまり使いません。意味だけ覚えておきましょう。注意しなくてはいけないのは、この単語だけで「~ない」という否定の意味をもつことです。

hardly/ scarcely：ほとんど~ない

seldom/ rarely：めったに~ない

※実生活での使用頻度としては、scarcely よりも hardly、rarely よりも seldom の方が高く、使います。

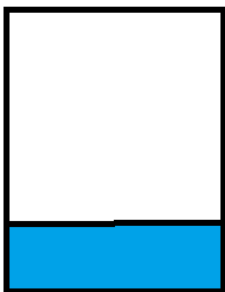
★4： a few と few, a little と little の違い (P380)

[解説]

参考書には「a little は“少しの~”、a が消えて little だけなら“ほとんど~ない”だから覚えましょう」と書いてあります。覚えられるわけありませんので考え方を書きます。

まず a が付くか付かないかで、意味が大きく変わるということですが、a は「形があるもの」にしか付かないです。つまり中学校でやったように「数えられる名詞」にしか付かないわけです。したがって「形として捉えられる部分には a が付きますが、形として捉えられない部分には a が付かない」と言い換えることができます。

以下の絵を見てみてください。



このコップを見たとき、皆さんにとってこの水の量は「少しまだある」ですか？それとも「ほとんど残ってない」ですか？人と場所によりこのコップに入っている水の量の捉え方は変わっていきます。例えば砂漠ならこれだけの水でもありがたいので「少しまだある」と捉えますし、これが大好きなジュースなら「ほとんど残っ

てないじゃん！」と感じるでしょう。人間は無意識に同じ量の液体を違うようにとらえているわけですが、その際、脳みそは異なる部分を認識しています。例えば「少しまだある」と捉えた場合、その人の脳は「水（の容積）」の方に注目しています。一方で「ほとんどない」と捉えた場合、その人の脳は水ではなく「空の部分の空気（の容積）」に注目しています。同じ1つのコップでも注目する場所が異なるため、脳みそが「多い」「少ない」「ある」「ない」を区別して判別するわけです。

さて話が戻りますが、a little と little の区別もこの考え方に完全に従います。つまり a little のほうは a がついているため空の部分ではなく、形として捉えられている「水」の部分に注目した表現になっています。一方で little の方は何もつかないで「数えられない」すなわち形がない空気の方に注目していることになります。よって表現と意味が以下のようにになります。

a little	少し～ある
little	ほとんど～ない

同じ考え方で a few と few も

a few	少し～ある
few	ほとんど～ない

となります。few は「数えられる名詞」、little は「数えられない名詞」につきますので、そのように区別してください。

★5： 部分否定、二重否定 (P381~375)

[解説]

この範囲は、新しい事項のように見えますが、★1の not と★2の no でやった「否定語は直後を否定する」という法則を使って訳出ができる色々な種類の例文が紹介されているだけです。Focus167~Focus169 までの例文がそれぞれ訳せるか確認してください。

※ P386 以下の「否定の構文」は今回は省略します。後日別途、構文150の解説を載せていくので、そこで被せて説明をしていきます。

Check! : Ultimate p392~p395 の章末問題で復習をしてみてください。その後以下の項目をチェックしましょう。

- not と never の違いが理解できる
- no, none, nothing が用いてある英文を日本語にできる
- hardly, scarcely, seldom, rarely のそれぞれの単語の意味がわかり、それを使って平易な一文が書ける
- a few と few, a little と little の違いを反映させながら英文を日本語にできる
- 部分否定、二重否定が使ってある英文を日本語にできる